



令和 7 年度

施 政 方 針

（はじめに）

先に行われました荒尾市長選挙におきまして、私は、無投票による当選の栄に浴し、去る２月５日から第２５代荒尾市長として３期目をスタートさせることができました。

多くの市民の皆様のご理解の結果だと受け止め、深く感謝申し上げますと共に、決して慢心することなく、皆様の負託に応えるため、誠心誠意職責を果たしていくことを改めて強く決意しているところであります。

引き続き市議会及び市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

さて私は、今後４年間のまちづくりの目標を、『あらお新時代！「暮らしたいまち 日本一」へ躍進』と定め、３つの基本戦略を掲げました。

基本戦略１は、荒尾駅周辺と緑ヶ丘地区を中心拠点として、それらと市内全域とを公共交通で結ぶネットワークの形成

基本戦略２は、誰もが世代に関係なく、より便利で、快適に暮らせる全世代型デジタル社会、スマートシティの実現

基本戦略３は、地球環境にやさしい「ゼロカーボンシティ」の推進、であります。

これらはいずれも既に着手しているものでありますが、それぞれ次のステージへと歩みを進め、本市まちづくりの大きな戦略として取り組んでいく考えであります。

基本戦略１に掲げた荒尾駅周辺と緑ヶ丘地区を中心拠点としながら、市域全体の調和を図ることは、平成２９年３月に策定した「荒尾市立地適正化計画」において明確にしており、２つの拠点の機能拡充は、本市の発展に欠かせない要素であります。

中でも荒尾駅の改修と駅周辺の整備は、長年利用者の皆様にご不便をおかけし、各方面からの要望も非常に多いため、最も優先すべき施策と捉えております。

既にＪＲ九州との協議も進めており、今年の秋には、エレベーターや駅の東西を結ぶ通路の設置等についての基本計画がまとまる予定であり、この計画を弾みに、本市の長年の懸案解決への道筋を付けてまいります。

また、「あらお海陽スマートタウン」においても、公園や緑地の整備を進めると共に、多様な民間施設の誘致を積極的に行い、荒尾駅周辺と一体となったにぎわいや活力の創出、ひいては雇用や消費拡大等による経済の好循環を生み出し、拠点地区としての機能を充実させていく考えであります。

また、もう一方の緑ヶ丘地区では、市制施行８０周年記念事業の一環に位置付けて、荒尾市立図書館を令和４年４月にシティモール内に移転整備しました。開館以来予想をはるかに上回る来館者が市内外から訪れるなど、現在では本市を代表する施設として親しまれております。

図書館の開館に合わせてシティモールも全面リニューアルされました。その結果、客

数、売上げ、雇用ともリニューアル前に比べ大幅に増加し、市全体の活性化に大きく寄与しているところであります。

緑ヶ丘地区は市立図書館、シティモールを中心として、住環境、交通の利便性の良さなどもあり、引き続きポテンシャルの高い地域であることから、更なる強化策について様々な可能性を検討していくことにしております。

あらお海陽スマートタウンと緑ヶ丘地区は、かつて本市を象徴する荒尾競馬場と三池炭鉱の炭鉱住宅があった場所であります。これらの歴史もしっかり受け止め、未来につながる地域へと再生させることが荒尾市全体の発展、市民の皆様の幸福度の向上への方策だと確信しております。

今後におきましても、市民本位の市政運営に努め、「暮らしたいまち 日本一」への道を邁進してまいります。

それでは、令和7年度の主要な施策について、「第6次荒尾市総合計画（改訂版）」に掲げる重点戦略「あらお未来プロジェクト」に沿ってご説明いたします。

（主要な施策）

横断的目標「こどももみんなも笑顔でいられるまちをつくる」

まず、横断的目標「こどももみんなも笑顔でいられるまちをつくる」であります。

住まいや雇用などあらゆる分野の視点から広く少子化対策を意識した事業を実施し、ライフステージごとに、切れ目のないパッケージとして幅広い施策を展開してまいります。

保護者の収入にかかわらず、認可保育所等に通う第2子以降の子どもの保育料を令和6年度から無償化しており、子育てにかかる経済的負担の軽減を図ってまいります。

また、一般不妊治療への助成に加え、治療費が高額な体外受精や顕微授精といった特定不妊治療への助成を行うなど、不妊の悩みを持つ方の子どもを持ちたいという希望に寄り添ってまいります。

また、令和7年度から、妊産婦及び小学6年生までの子がいる世帯を対象に、24時間365日いつでも医師に相談可能なオンライン医療相談アプリを導入し、医療に対する不安を解消してまいります。

地域に対する愛着醸成や若い世代の交流の場づくりとしまして、市公式メディア「ぎゃんすき！あらおちゃん」プロジェクトを通じて、魅力ある情報発信・交流事業を行ってまいります。

孫文と宮崎滔天の友情により始まったシンガポールとの交流は、令和7年度は本市中学生がシンガポールを訪問します。現地の中学生との交流により、郷土への誇りを醸成し、異文化・多文化を尊重する姿勢を育んでまいります。

また、児童生徒1人に1台配備しているタブレット端末を更新し、どこでもつながる質の高いICT環境を維持するとともに、タブレットの位置情報を活用した児童見守りサービスを市内全ての小学校に導入し、児童が安全安心に登下校できる社会を目指してまいります。

①「切れ目のない充実した子育て環境をつくる」

五つの柱一つ目の「切れ目のない充実した子育て環境をつくる」であります。

妊娠から出産・子育てに至るまで、ニーズに合わせた切れ目のない支援に加え、子どもの成長段階に合わせた支援、教育の質の向上への取組などにより、子育て環境としての魅力向上を図ってまいります。

熊本連携中枢都市圏に加入することで、荒尾市在住で熊本市にお勤めの方が同市にある病児・病後児保育施設をご利用いただけるようにしてまいります。

外国籍の子育て世帯や妊産婦の相談に対応するために字幕で表示する翻訳機を導入し、行政サービスを円滑に提供できるようにしてまいります。

市内で活動されている子ども食堂には、その発展・充実のため、運営に係る経費に対して助成してまいります。

教育環境につきましては、学校施設のバリアフリー化の推進に加え、小中学校におけるトイレの洋式化を進め、衛生面の向上もスピード感を持って進めてまいります。

安全安心な学校施設を実現するため、老朽化した施設の改修にも継続的に取り組んでまいります。小学校においては、追加配備を含めた防犯カメラの更新も行なってまいります。

休日の中学校部活動の地域移行に向け、部活動総括コーディネーターの配置とともに、在り方検討会による協議を行ってまいります。

学力の向上につきましては、中学生全員を対象とする英語検定費用の助成、ALTの5人体制及び英語教育の指導力向上のための教職員研修を継続することで、英語の日常化を目指してまいります。

一人一人の教育的ニーズに対応した、適切な指導・支援を行い、子どもたちが落ち着いて学校生活を送れるよう、特別支援教育支援員の更なる増員を図ってまいります。

全ての中学校及び桜山小学校に設置したハートフルルーム並びに小袋教室において、学習指導などを行うことで社会的自立を目指してまいります。

②「誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる」

次に、二つ目の「誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる」であります。

誰もが地域の中でつながりを持ち、安心して生活できるよう多様性を尊重した地域共生社会の実現を目指すとともに、心身ともに健康であり、生きがいを持って生活できるよう目指してまいります。

まず、「保健・福祉・子育て支援施設」につきましては、健康づくりや疾病予防、保健・福祉・子育てに関するワンストップでの相談・支援など、子どもから高齢者までいきいきと健康で安心して暮らせるまちづくりの拠点として、令和8年度のオープンを目指して着実に整備してまいります。本施設に子どもの「遊び場スペース」を設けることで、親子で気軽に立ち寄られるとともに、利用者同士や多世代での交流や活動ができる施設を目指してまいります。

带状疱疹を予防するワクチン接種が、令和7年度から予防接種法上の定期接種となりました。接種体制を速やかに整備するとともに、対象となる方への周知を行ってまいります。

健康長寿社会の実現に向けて、「あらお健康手帳」やスマートフォンアプリ「デジタル健康手帳」についての実証を重ね、今後、保健指導等へ活用できるよう取組を進めてまいります。

また、引き続き将来の健診結果をAIで予測するサービスや血液検査で将来の疾病発症リスクを予測するサービスで健康意識を高めるとともに、小型センサーやスマートフォンを活用した糖尿病予防プログラムを実施し、生活習慣の改善を進めてまいります。

令和6年度に大牟田市の受託医療機関でもがん検診や国民健康保険の特定健診、若年者健診が受診できる体制を構築したことから、特に本市住民の受診が多い医療機関に対して受託の働きかけを行うことで、更なる利便性及び受診率の向上に努めてまいります。

障がい者福祉につきましては、地域の相談支援体制を強化するために相談支援事業所に対し、指導助言等を行う基幹相談支援センターを有明圏域の2市4町共同で設置するとともに、発達障がいのある子どもを持つ保護者に対しては、発達障がいの特性を踏まえた子どもとの関わり方を学ぶペアレントトレーニングを実施し、子育て不安の解消を図ってまいります。

長期にわたり就業していない方やひきこもりの方に対しては、社会福祉協議会と連携しながら、アウトリーチなどの手法を活用した一人一人の状況に応じた支援を続けることで社会的孤立を防止してまいります。

生涯学習の推進につきましては、子どもの頃からの読書習慣の定着を図り、より深く学ぶ環境を整備するために、国語の教科書に掲載されている推薦図書を購入し、各小学校に貸出しを行ってまいります。

③「雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる」

次に、三つ目の「雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる」であります。

市内の雇用の場を拡大し、あらゆる人が市内で就職しやすい環境をつくることで、人手不足の解消を図るとともに、地域産業の生産性向上や地域経済循環の活性化を図り、所得の向上を目指してまいります。

企業誘致につきましては、あらお海陽スマートタウンに、宿泊施設、アウトドア施設、温浴施設など多様な民間事業者の誘致を進めてまいります。

新たな工業団地の整備につきましては、現在進めている調査の結果を踏まえて検討を続けてまいります。

若者の地元就職の促進につきましては、企業視察ツアーや大牟田市との連携による企業と学校の意見交換会を開催し、地場企業の認知度向上を図るとともに、雇用につながるマッチングの機会を作ってまいります。

また、ハローワーク等の関係機関と連携し、生活保護受給者や生活困窮者の実情に即した就労支援を継続して行ってまいります。

農業の振興につきましては、平山及び府本地区での圃場整備や農地集積を推進するとともに、「道の駅」開業も見据え、野菜や果物の種子・苗や、農業用機械等の購入への助成を行い、品ぞろえの充実を図ってまいります。

本市特産の梨につきましては、品種構成の多様化を図るため、転換に対する苗木補助を行うとともに、「ことのみ」ブランドの更なる確立を図り、販路拡大を支援してまいります。

自然災害や有害鳥獣による農作物被害を防ぐため、被害対策に係る資材等の購入への助成を行うとともに、捕獲した有害鳥獣の焼却処分費用を直接市が負担し、捕獲者の処理負担の軽減を図ってまいります。

水産業につきましては、引き続き荒尾漁協と連携してマガキの生産、販売体制の強化に取り組むとともに、覆砂やエイによる食害対策等の支援を行い、アサリ等の漁獲量の向上を図ってまいります。

④「あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる」

次に、四つ目の「あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる」であります。

移住促進に向けたプロセスとして、本市と継続的に多様な形で関わる人々を「あらおファン」と位置付け、まずはその拡大を図り、それぞれの関わりを深めることで、本市への好感度を高め、最終的に移住につなげることを目指してまいります。

移住定住への契機として「あらおファン」の拡大に向けた観光への取組が重要となつてまいりますので、今後も荒尾干潟と万田坑という二つの世界基準の観光資源をいかして、観光地としての魅力を更に高めてまいります。

荒尾干潟水鳥・湿地センターでは、サンセットカフェ等の各種イベントやテラー乗車をはじめとする体験プログラム、万田坑では、世界文化遺産登録10周年を記念したイベントの開催や炭鉱電車の定期的な実走の公開を行い、荒尾にしかない魅力の発信を行ってまいります。

本市への移住・定住の促進につきましては、引き続き、積極的な情報発信や移住コーディネーターによるきめ細かなサポート、移住検討者のニーズに応じたオーダーメイド型移住体験ツアーの実施に加え、子育て世帯の住宅取得を伴う移住への助成、テレワーク環境整備への支援により、移住先として選ばれる地域づくりを進めてまいります。

また、地域活性化起業人による外からの視点で本市の魅力を広く情報発信し、交流人口の拡大、移住定住につなげてまいります。

⑤「先進的で持続可能なまちをつくる」

最後に、五つ目の「先進的で持続可能なまちをつくる」であります。

荒尾市DX推進計画に沿った先端技術の積極的な活用による暮らしの質の向上、新たな中心拠点づくりを目指してまいります。

荒尾駅の改修につきましては、バリアフリー化及び利便性向上に向け、JR九州との協議により基本計画を策定するなど推進してまいります。

また、にぎわいの創出と地域の魅力向上のため、空き家・空き店舗の利活用を進め、駅周辺の活性化に取り組んでまいります。

あらお海陽スマートタウンにおいては、公園・緑地の整備と事業完了に向けた宅地の換地処分などを進めてまいります。

国土強靱化の観点から、持続可能なインフラである道路、水道、下水道についても、整備して50年以上経過したものもあり、しっかりと更新工事を進めてまいります。

地域高規格道路「有明海沿岸道路」につきましては、三池港インターチェンジ連絡路の工事が順調に進んでおり、荒尾道路につきましても、地盤調査や測量・設計が進み、本市としても開通に向けて全力で協力してまいります。

また、広域ネットワークの強化として、熊本県及び長洲町と共同で整備を行っている「野原赤田線」につきましても、必要な用地を取得するなど一日も早い開通に向けて整備を進めてまいります。

高齢者などの情報格差の解消を図るため、スマートフォン体験会やスマートフォン教室を市内各地で継続し、全ての市民がデジタル化の恩恵を享受できる全世代型のデジタル社会を構築してまいります。

また、本庁舎、保健・福祉・子育て支援施設及び市民サービスセンターに遠隔で手続や相談を可能とする窓口システムを導入することで、利用者の利便性の向上を図ってま

います。

公共交通につきましては、あらお海陽スマートタウン内にバス路線の新設を検討してまいります。また、新たに学校と連携したモビリティマネジメントを行ってまいります。

持続可能な循環型社会の形成への取組として、住宅、事業所及び公共施設への再生可能エネルギー設備等の導入促進を図り、エネルギーの地産地消を推進してまいります。新設する保健・福祉・子育て支援施設に太陽光発電設備を設置し、使用する電力の一部を賄うとともに、蓄電池を設置することで災害時の非常用電源としての活用を図ってまいります。

近年頻発する集中豪雨等の自然災害につきましては、今後もハード・ソフト両面から強化を図ってまいります。

ハード面においては、令和2年7月豪雨により堤防が決壊した関川では、県により改修が進められており、市においても浸水対策を推進してまいります。

ソフト面においては、地域防災リーダーの育成や地区防災計画の策定を支援するとともに、避難行動要支援者に対する個別計画の策定につきましても、避難支援者と連携しながら進めてまいります。

防犯対策につきましては、防犯カメラの更新や地域におけるLED防犯灯設置費用の助成を行うとともに、荒尾警察署と連携して犯罪が起きにくい地域づくりを推進してまいります。

(令和7年度当初予算案の概要)

次に、令和7年度当初予算の規模について申し上げますと、一般会計が274億7,000万円、特別会計が158億170万円、企業会計が162億6,883万6千円で、全会計の総計は595億4,053万6千円といたしました。

これを前年度当初予算と比較しますと、一般会計は4.2%の増、特別会計は6.5%の増、企業会計は4.5%の減、総計で2.2%の増となっております。

昨今の、光熱費や各種の資材、労務単価等の物価高騰の影響を受け、各会計とも予算編成に大変苦慮したところでございます。

そのような中でも、荒尾駅の改修及び「あらお海陽スマートタウン」の整備をはじめ、新ごみ処理施設の整備や浸水対策等の事業を着実に進めるためにも、令和7年度には新たな行政改革大綱を策定し、職員一丸となって、財政の健全化・安定化を図れるよう取り組んでまいります。

(おわりに)

以上、「あらお未来プロジェクト」に沿って、主要な施策を述べさせていただきました。

いま、荒尾市は、急速に進む少子化や超高齢社会への対応、人口減少など、多くの課題を抱えており、その解決に向けた予算としております。

一方で、荒尾市は、福岡と熊本両都市圏の中間に位置し、まちがコンパクトで、自然と都市機能のバランスが良く、豊富な観光資源など、優れた特性があります。

さらに、行政経営理念として定める、「現場主義の徹底と市役所イノベーション」に基づき、近隣地域や熊本市との連携中枢都市圏などを活用した広域連携、産学官の連携、市民協働などにより、最小の経費で最大の効果を目指す、経営の改革に取り組んでいるところです。

以上のような施策や市政運営を着実に進めることで、誰もが健康で、荒尾に住んで良かったと幸せを実感できる、『暮らしたいまち 日本一』へ躍進を図ってまいりますので、今後とも、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、令和7年度の施政方針といたします。